

# Hello

2002

11

No.229

# friends

KANAGAWA  
INTERNATIONAL  
ASSOCIATION  
NEWSLETTER

神奈川県国際交流協会は、ことし創立25周年です。

(財)神奈川県国際交流協会 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ あーさ 355 1階 045-896-2626

## 特集 ゆっくり生きる

グローバル化が急速に進むなか、私たちの暮らしはますます便利で「豊か」になり、世界が小さくなったと感じる機会が多くなったかもしれません。しかし、その一方で、世界中の、多様性に富んだ文化や生き物たちが、この波に翻弄され、飲みこまれ、消えゆくようにしていることへの警鐘も聞こえてきます。グローバル化の強大な流れに身を任せ、ひたすら速度を上げながら走り続ける。それは、本来見えていたはずの無数の“多様なもの”/“多文化”への視点を欠落させてしまったり、様々な背景や個性を持って、それぞれのスピードで生きている人たちがいることを、無意識に見過ごしてしまうことにはつながらないでしょうか。そして、自分自身の「生きやすい」スピードさえもわからなくなって、地に足を付けて「生きている」という実感さえ希薄になっていたら...。「少し、生き方の速度を緩めてみたい。立ち止まって周りを見わたしてみると、見えなくなってしまった大切なものが、再び見えてくるのでは」。本特集では、そんな疑問に端緒を發し、フェアトレードの実践、「食と農」、そして「障がい」を生きるという切り口から「生」を見つめ直す作業を通して、「ゆっくり生きる」ことを選んだ3人の方々に複数の記者が取材し、世界と私たちの足もとを結びつける「地球市民」の思考の跡を、それぞれのやり方でたどってみることにしました。

### ゆっくり生きる

今幸せかって？  
幸せだと思うよ。

まあ欲を言えば、もうちょっとお金があればいいなあ。  
時間も欲しい。  
友達となかなか会うヒマがないし。  
それでも先週末はメールで連絡がとれた仲間と飲みに行って、  
結局ファーストフードで朝までおしゃべり。  
今日は買い物帰りに最近ハマっているタイレストランで  
お気に入りの生春巻きとソムタムとパッタイを食べられたから、かなり満足。

仕事？う～ん微妙。  
結構忙しいよね。とりあえず毎日こなしてはいるけど。  
こんなんでもいいのかなって思うときもあるけど、  
じゃあ、どうしたらいいかって考えるコトはほとんどしてないよね。  
良くないなって思っはいるけど...。  
いつも朝はあわただしくて食事抜きの時もあるし。  
残業で帰れないときは机で清涼飲料水とカロリーメイト<sup>®</sup>を摂取したり。

まあ皆、こんなもんでしょ。

...でも、何かを置き去りにしていないかなあって  
不安になることもあるよね。



## 特集「ゆっくり生きる」「大切なものに気づくために」～カフェスローからみる「ゆっくり生きる」～

### カフェスローへ

- これから会うかもしれないある友人の話として聞いてください -

そこに行ったのはほんの偶然だった。  
喧噪の絶えないバス通りに白い壁面がうっすらと浮かんで見えた。  
それは、夏の終わりのある日、ちょうど昼が去り夜が迫ってくる、  
そんな時間。

うす暗がりの店内を、足元をゆっくり確かめるようにして入りこんだ。  
目の前には飾り気のないグラスにキャンドルがゆらゆら。  
数人の店員がヴァイオリンのすました調べを遮らないように柵の  
木のカウンターと手作りの小さい木製のテーブルの間を縫うよう  
に行ったり来たりしている。

室内は陰影のある黄褐色の壁で統一されていて、どこか異国の秘  
密の洞窟に招待されたようだ。

なんだか居心地がいい、それが第一印象だった。

\*その壁の正体はストローベイルといわれる、葎を乾燥させたブロックだとい  
う。カフェスローの壁は葎を滋賀県から取り寄せ、珪藻土で固めているもの  
で断熱、遮音、耐震、難燃、防虫、防水、耐久性に優れている。その壁の厚さ  
は50cmにもなるという。感心したのは、職人とボランティアの人たちの  
「手」で作られたということだ。

\*毎月第2金曜日はろうそくの灯りで過ごす暗闇カフェ。穴沢雄介さんのヴァ  
イオリンの美しい音色に出会える。

ヴァイオリン奏者は曲をひとつ終えるたびに、ぼつぼつと語りかけた。  
声が井上陽水に似ている。

ささやかと会話を楽しんでいた客もその声にじっと耳を傾ける…。

### キッシュとコーヒーの味

手作りキッシュは絶品だった。

熱いコクのあるクリームにからまってオーガニック野菜がたっぷり  
入っている。

\*キッシュはこの人気料理。「豆カレーのゆっくり煮」は玉ねぎをあめ色に  
なるまでじっくり1時間煮こんでいる。ほかにオーガニックビールにオーガニッ  
クのおつまみなども。

「ここに来るお客さんはほとんどが地元の人。それもミュージシャン  
が多かったから最初の(カフェを作る時の)コンセプトにはなかった  
ライブをやるようになった」

とオーナーの吉岡氏は語る。

それは人と、地域との関わりあいから生まれてくる気持ちの良い  
ハブニングだ。

インターネットでこのお店を知って、遠くから足を運ぶ人もいるとか。

若者から年配の方までそれぞれ、さまざまな人がやってくる。

最初からは無理でも、やがて少しずつカフェスローのスタンスを  
皆はわかってくれるという。

特に、昔と比べたら今時の20代の若者はたいしたものだ、大いに  
期待している、と彼は続ける。

若者は重圧に負けておらず、可能性もある。

確かに学生生活から卒業して、社会の仕組みを一旦学ぶ時期が必要だ。

気落ちすることもあるだろう。しかしそこから再構築を起こすこ  
とが大事だ。

…そう言う吉岡さんの顔は嬉しそうだった。

\*彼はカフェのオーナーの他、大学の講師などの4足のわらじを履いていると  
いう。来年も関東学院大学などで「人権論」「NPO論」等の教鞭をとること  
が決まっている。

勧められるまま、エクアドルコーヒーと(産業廃棄物の)“おから”  
で作ったケーキ、ごまアイスをいただいた。

このエクアドルコーヒーのいわれは、こうだ。

…日系の企業が大規模な鉱山開発をやっていて、住民たちはNO  
と言った。

環境が壊れば子どもたちが将来ここで暮らしていけなくなっ  
てしまう。

でもNOというだけじゃ説得力がない。

雇用の問題などがあるからだ。

そこで鉱山開発のかわりに、有機コーヒーの栽培を始めた。

日本はコーヒー消費国でもある。

だからコーヒービジネスを通してこの問題を訴えていくことで、  
彼ら地元民を支援できる。

コーヒーから世界が見えるし、コーヒーで世界が変わる…

「(日本や先進国は)ものすごく輸入しているが反面大量廃棄して  
いる。生態系を崩すこともある。お金でなんでもかんでも買えれ  
ば文句ないっていう言い方ではなくて、農業や漁業のありかた  
まで変えてしまうようなものじゃなくて、環境破壊をおこすよ  
うなものじゃなくて…(そうならないための、我々が生活の中で  
できる限りの)“不便さ”くらいはもたなくてはいけないのでは  
ないか。…それは不便さというよりは、モラルの問題だと思う。」と、  
オーナーはとつとつと説いてくれた。

### 夢の居場所

ヴァイオリンはどこかで聞いた曲をゆったり奏で始めた。

聞きながら椅子に深く腰掛け、毎日を振り返ってみる。

いつのまにかファーストな生活が染みついてしまった。

それはいったい何を意味するだろう。

今のわたしに少しだけ思い出されるのは、ゆっくりと時間をかけて、  
お茶を飲んだりご飯を食べたりできる“空間”を失ってしまった  
のかな、ということ。

「食べる」ということは、例えば家族と、例えば大切な人と、共に、  
“場所”と“時間”を共有し、同じものを食べ、さまざまなこと  
を無防備に語り…、とにかく、「食べる」とはもっと楽しい筈だ  
たのではないのか?

ここ、カフェスローは、普段は立ち入らない心の奥に、すんなり  
入り込める魔法をも与えてくれるようだ。

脇のスペースには民族楽器やフェアトレード商品が売られていた。

興味深い書籍やチラシなども置いてある。

低エネ、非暴力平和、共生、循環型ライフスタイル…

普段だったら目に留まらない言葉たちがすっと入ってくる。

ここはさまざまなワークショップやイベント、NGOの情報の発信  
スペースにもなっているのだ。

オーナーにお礼を述べて外へ出た。

このカフェは、こんな風に言っているようにも思えた。

もともと人間も自然も、小さくて「スロー」なもの。

でもそれでいい。それをまず認める。

そして、共鳴する私たちから少しずつついでいい、この世界を変えて  
いこうよ、と。

ここ、カフェスローで語りたいのは、ただの理想論や夢物語では  
ない。

しっかりとしたポテンシャルを持って、ポジティブにこのメッセ  
ージは伝えられているように感じるのは私だけではないだろう。

(横浜から電車とバスを乗り継ぎ たっぷり2時間はかかる  
このカフェへ ゆっくり時間をかけ あなたもどうぞ…)

(S)

カフェスロー(ホームページ) [www.cafeslow.com/](http://www.cafeslow.com/)

(Tel) 042(314)2833

(住所) 東京都府中市栄町1-20-17

## 特集「ゆっくり生きる」

## “いのち”を感じる、自由になる

## “スローフード”って現実的？

月×日。昨夜は、知人の紹介で手に入れた辻信一氏の著書、『スロー・イズ・ビューティフル』（平凡社）を読み始めた。ゆっくり生きる、スローライフ、そして、“スローフード”。最近、様々なメディアに登場するこのキーワード、とても気になってはいた。ただ、正直なところウサンくさい気がしていたのも事実。“素性の知れた”、“オーガニックで安心な”地場の食べ物を大事にし、そして時間をかけて料理や食事を豊かに楽しむ…。

確かに、スローに暮らして、ゆっくり食を楽しむことが出来れば素敵だろう。しかし、会社勤めの自分の生活に、それがすんなり馴染むのかというと、疑問を抱かずにはいられない。それに、「スローフード」を追い求めることは、なんだか身の丈に合わない贅沢な行為のようにも感じられるのだ。産地が明確にされ、手間と時間をかけて育てられた安心感のある食材は、しばしばそうでないものと比べて値が張る。自分と同年代の若者たちは、スローフードについてどんな思いを抱いているのだろうか。

## 「農」のある暮らし

そんな疑問をぶつけてみたい人に出会い、話を聞くことが出来た。二上剛士さん、22歳。ナマケモノ倶楽部、通称“ナマクラ”と呼ばれるNGOのメンバーで、「農のある暮らし」を考えている大学生だ。辻信一氏のゼミ生でもある。ゼミの実習で、かつて南米のエクアドルを訪れた。自分たちの文化を大切に守り、「持続可能な」暮らしを営む現地の人々を目の当たりにしたことが、ナマクラでの活動を始めるきっかけとなった。

「農のある暮らしを考えるようになったのは、人間はごはんを食べなきゃ生きては行けないという、当たり前なのに気がついたから」という。生きることは、食べることをベースにして、詩作や写真など、自分の興味のあることをやっていきたいと考えた。昨年、ゼミやナマクラの仲間たちと共に、舞岡公園で稲を育てている。機械は一切用いない。手間と労力がかかるが、伝統的な農法を大事にしている。「宇宙食のようなものが、日常食になる時代が、いつかやって来るかもしれない。でも、人間は土や農を通し、時間をかけて食べ物を得るといった経験があってこそ、生きているということを実感できる」と考える。

現代の都会生活では、「農を身近に感じることが難しいのではないかと聞いてみた。「みんなが集まる場所、例えば職場の空きスペースやベランダなどに、農を感じ

られる場所を作ることはできるでしょ」と提案してくれた。「ささやかなところから、土と、そこから生まれる“いのち”を感じることができれば、お百姓に対する敬意も生まれ、また、いのちをいただくことの大切さにも気がつくはず」という彼の言葉は、重く受けとめたいと思った。



©Tsuoyoshi NIKAMI



©Tsuoyoshi NIKAMI

## 自由になること

改めて、彼の「食」に対する考え方を聞いてみたくなった。食生活の上で、特に意識して実行していることはあるのだろうか。答えは、意外にも「ノー」であった。『『これを食べなきゃ』といった、義務感や縛りに囚われるのはおかしいと思う。スローライフは、自由になること。固定観念や“定義”を真似するのではなく、自分のライフスタイルを、あらゆる束縛から解放すること』だと。だから、自分のからだが必要なもの、第一だと思っている。「“スローフード”は、ブームとしていつか過ぎ去ってしまうようなただのキーワードではないし、ましてや人々の食生活にある一定の“型”にはめこむものでもない。言葉に集約して、それにまつわるイメージに囚われてしまうのではなく、自分が本当に求めるライフスタイルを見つけるための、ひとつの入り口と捉えていいのでは。生活の中で、自分にとっての真の喜びを発見していくことこそが、スローライフの原点」と彼は考える。

一方で、彼自身は時々厳しく自分の欲求を抑えこむことがあるという。それは、欲求が満たされない「飢餓感」の中であってこそ、自分とじっくり向き合うことが出来、あらたな発見があることを知っているからだ。いつも「満腹」では何も考えられないとの指摘は、胸に響いた。「暴飲、暴食は、

自分に対する暴力でもある。そもそも、消費によって満たされること、経済を推し進めることは、つきつめれば暴力だと思う。食について言えば、家族や仲間と一緒に、適量をゆっくりいただくことで、本当は十分に満足できるはず。」

## 若い仲間たちへ

二上さんは最近、自分の人生を他人事のように話す人がいることが、気になっている。「神隠しに遭ってみたい」というある女の子がいたそう。現状に不満があるのだが、自分ではどうしようもない。まるで「スイッチを切るように」、自分を消してしまいたいと思うその子の言葉に、共感も覚えたという。若者の引き起こす、短絡的で残酷な犯罪も気がかりだ。

彼は、人との出会いや別れをとおして、色々なことを考えてきた。時には衝突し、他人や自分に迷惑をかけて、初めて気が付くことも多かったと振り返る。ぶつかるとは、本気で向き合うこと。面倒だし、時間もかかるが、とても大事なことだと思っている。若者たちの、思慮に欠ける言動の数々。その背景には何があるのか。苦勞せずしてあらゆる楽しみを簡単に得られ、欲求が満たされる現代社会の中で、自分と自分を取り巻く周囲との関わりをじっくり見つめる機会を失っているのでは、と懸念する。「もっとゆっくりでいいと思う。好奇心の趣くまま、自分や世の中とじっくり、“スローに”向き合って、自分なりの歩き方を見つければいいのでは。」

(H)

## 【周辺情報】

ナマケモノ倶楽部（通称“ナマクラ”）  
1998年発足の環境NGO。コンセプトはナマケモノと森を守る（環境運動）、環境共生型ライフスタイルの提案（文化運動）、フェアトレードによる地域支援（エコビジネス）。ナマケモノが低エネルギー・非暴力平和・共生・循環型ライフスタイルを持つと指摘し、この哺乳動物に学んで私たちの生き方を考え直してみましようと呼びかけている。辻信一氏も、世話人の一人。  
（ホームページ）<http://www.sloth.gr.jp>  
（Tel）03(3638)0534（事務局）

## 舞岡公園

戸塚区と港南区にまたがる約30haの公園。里山に囲まれた田園風景が広がり、農体験や自然観察を楽しめる。市営地下鉄舞岡駅下車25分。または、江ノ電・神奈中・市営バスで「京急ニュータウン」下車。

## 特集「ゆっくり生きる」

「おれは、がんばらないよ」～ある詩人のぼやき～

「来 たーよー」。いつも突然職場に遊びに来る彼、47歳の詩人 パントマイマー—脳性マヒの「障がい者」 大酒飲み—「不良」中年の福田稔さんと会ったのは7年前だ。ザイニチコリアン—ゲイ—大阪人 映画監督の中田統一さんが撮影した「大阪ストーリー」の試写会の後で福田さんがもうけてくれた交流会に顔を出したときだった。秋の昼下がりに、来年韓国で一人芝居を打つ計画を考えている「国境を越える障がい者」の彼に、いま足もとで考えるべき事柄について、お話を聞いた。

## おれはゴミだ!!

—「宇宙塵」のペンネームの由来は？  
高校生のときから使ってる。高校のときは「人」の字を使って「宇宙人」だった。10年くらい前から、「湘南亀組」(\*1)のパントマイムのテーマの詩をチラシに載せるようになって「塵」にした。人間なんて宇宙からみたらゴミでしょ。なんだかんだ言っても、宇宙から見ればたいしたことない。(そう考えるとゴミ同士の)戦争なんかからしい。ささいなことのお悩みも...。そう思うね。

—生産性という尺度からすると余計なもの。その意味で社会から不要とされる「ゴミ」。「宇宙塵」にはそういう存在として見られることへの皮肉が入ってますか？

そう。宇宙塵のぼくもゴミだ。でも、ぼくを見てのおまえらもゴミだ。みんなゴミなのに、「自分だけは必要だ」と思うの。自分が自分を必要としてるだけなのに...。ところで、協会の云う「多文化・共生」の「多」と「共」に「障がい」は入るんですか？

## 「怒る」と「ガンバル」の違い

—「ガンバル」と「怒る」とは違う？  
それは違う。ぼくは、怒ることで生きてるみたいなものだから(笑)。(怒ることは生きるうえで)パネみたいなもの。家のこと(\*2)も、「公にする」って言わなかったら(業者はきちんとした対応を)やんなかった。だから、ぼくは、ニッポンって、なんで弱いやつが生きていくのにたたかわないといけないのかなって思う。たたかえないやつは結局つぶされちゃう。そういう人の「声」は(表にで)ない。でもそういう人の方が多い。

「怒り」は自分から出るパワーだと思う。「ガンバル」というのは人から言われるとか、社会的に受け身なの。打ち上げられちゃう花火みたい(笑)。はたからみたら(花火は)美しいけど、(打ち上げられる)本人はたまらないよ。「お国のために生きる」とか、「天皇のために死ぬ」とか...。「ガンバラないこと」は、「なんにもしないこと」じゃない。「ガンバレない」と「ガンバラない」は違う。あえて、ガンバラないの。

—電車が最近よく止まる。年間3万人の自殺者。「人身事故」のアナウンスが流れると、舌打ちする人がいるけど、あるとき自分も舌打ちしてた。ゾッとした。みんな不安だからガンバルんだ。だから、予備軍なんだよ。舌打ちしたりするのは、「怒り」とはぜんぜん違う。あきらめ。がんばって人を殺す人は、自分も殺されるよ。不安なのは、(いまの)生活(が崩れちゃうことなん)じゃないかな。人間の生き方も異常だ。みんな同じく、同じ格好で...。いらぬものをこんなにいっぱいつくって...。いまのこんな「豊かさ」は必要ないの。これは世界全体から見たら異常だよ。最近ぼくね、引越すのに、ものがいっぱいなの。いらぬものばかり。ビデオとか、見ないもん。あれダメだよ。だからもういらぬものは捨てようと思う。ほんとうにいるものは、あんまりないよ。



—ガンバったことは？  
ぼくもガンバったことあるよ。学校のとき優等生だったから。青い芝の会(\*3)の運動やってたときもガンバってた。その運

動自体はいけないことではない。でも「無理」してたと思う。社会を変えようっていう「大義名分」があったから。でも変わらなかった。ほんとうに変えるためには、ガンバラない方が変えられるんだな。楽しく...(笑)。ガンバっちゃうと自分がわかんなくなると思うよ。

## 詩人の「悪の種」

ぼくは「悪」だよ。「悪」になりたい。ぼくの言う「悪」は「正義」じゃない。世界中で「戦争」を「正義」っていう人にとっての「悪」。いま、いちばんしたいことは、地球市民プラザに毎日通って遊ぶこと。ぼくも「地球市民」のはずだから。「悪」を蒔くの。「ゆっくり」は「悪」なの。ぼくにとっての「ゆっくり」は、ぼくの全部。ぼくの動き。ほんとうは「善」は「悪」なんだよ。だってね、障がい者はいつも「善人」(にされてしまう)だよ。みんな、なんで「悪」だっていわないの。「不良障がい者」ってぼくだけ。ほんとうはみんな(効率とかスピードとか生産性の世界から見れば)不良)なの。(そして)悪)なの。「清く、貧しく、美しく」は嫌いだ。なんで「汚い」といけないうのかね。なんで「美しく」といけないうのかね。「貧しく」はいやだけど...(笑)。ぼくは、そう、「贅沢は素敵だ」のタイプ。でもぼくの「贅沢」って食って、飲んでができればいいの。20歳のころは、家から出て、最初は食えなかったんだもん。「青い芝の会」で仲間たちを集めて、みんなで集まって生活した。(「健康者」の)学生たちも食えないから、ぼくらのお金でたべた。カンパとかね。あと、個人的には詩を売ったんだ。一日で3万とか5万とか...(笑)。吉祥寺で。文化人が多くいて売れるから(笑)。だから手伝ってくれた学生に、夜、食べさせて飲ませて...(笑)。その学生たちはいまはりっぱになってる。りっぱな「悪人」にはなっていないけど...(笑)。そのときはぼくも「正義」だったから...(笑)。

—「ガンバラない」を「ガンバル」っていうことはない？

ある。ほんとうはとってもしんどいよね。でも、いまの子の方が不幸だと思う。(社会が)あえて「差別」をみえにくくしてるから。複雑になって、差別する方も、差別される方もお互いに不幸だ。なんで差別するのか、なんで差別を受けるのかわかんないからね。実際は昔と変わってないのに。でもぼくは楽観的に楽しく考えてるから、なにかがおかしくなった時にはぼくのような人間が出てくると思うよ。ぼくはぼくの「悪の種」を蒔いてるの(笑)。

福田稔さんのホームページは

<http://www2s.biglobe.ne.jp/~kobo/minoru/fukuda.html>

(E)

\* 1 湘南亀組：福田さんの母校、県立平塚養護学校の教師と生徒が中心になって21年前につくったパントマイム劇団。「障害者」と「健康者」が共に表現をつくりあげる。

\* 2 家のこと：現在住んでいるアパートの立ち退きをめぐっておこった問題。障害者への住居問題の理解のなさが『サンデー毎日』(2002.9.1号)でも取り上げられた。

\* 3 青い芝の会：1970年代に脳性マヒ者が「われわれは強烈な自己主張をする」「われわれは正義と愛を否定する」など、5つの行動綱領をかかげて展開した障害者主体の運動団体。当時の社会に大きなインパクトを与えた。

## 第5回地球市民学習リーダーセミナー「まなびの工具箱」 「違い」を豊かさにつなげる仲間づくり

教室の中にあるさまざまな「違い」。その、ひとりひとりの「違い」を尊重しあうためには、どんな「授業」や「場づくり」をしたらいいのでしょうか？ 第5回のセミナーは、川崎市の私立桜本保育園で多文化共生保育を実践し、地域の小中学校へ文化講師ボランティアとして出かける在日コリアンの尹卿恵(ユン・キョンヘ)さんが講師です。思いを伝えるため、保育園や地域の仲間たちと一緒に、自分たちの「絵本」や「演劇」をつくって活動してきた尹(ユン)さんと、「違い」を豊かさにつなげるための「学び」を考えます。

と き 2003年1月18日(土) 13:30 ~ 16:00

と ころ あ-α 35c 1階・ワークショッブルーム

(JR根岸線「本郷台」駅徒歩3分)

講 師 尹 卿恵(ユン・キョンヘ)さん(桜本保育園保育士)

申込締切 2003年1月10日(金)

締切後も空きがあれば申込可能ですので問合せください

## 第4回「身近なモノから世界が見える」まだ募集中!

と き 11月30日(土) 13:30 ~ 16:00

と ころ あ-α 35c 1階・会議室

講 師 千葉 保さん(三浦市立南下浦小学校長)

申込締切 11月15日(金)

締切後も空きがあれば申込可能ですので問合せください

### 【共通事項】

参加費 無料

定 員 30名(申込者多数の場合は抽選)

申込方法 参加する回、氏名(ふりがな)、所属(学校名や団体名)、連絡先(電話、FAX、Eメール)をすべて明記して、電話/FAX/Eメールでお申し込みください。ご参加いただけない場合のみ、こちらからご連絡します。

主 催 神奈川県立地球市民かながわプラザ

企画実施 (財)神奈川県国際交流協会

申 込 先 企画情報課 TEL: 045-896-2896 FAX: 045-896-2945

E-mail: kikaku@k-i-a.or.jp

【予 告】 第6回「あ-α 35cの展示を利用した国際理解教育」(仮題)

と き 2003年3月15日(土)の予定

コーディネーター 山西 優二さん(早稲田大学教授)

## ことばと文化セミナー 冬期言語講座のご案内

アジア・中東・中南米の「ことば」を基礎から学んでみませんか？今回は、すべて初めて学ぶ方向けのコースとなっており、簡単なあいさつ程度ができるようになることを目標にしています。回数も8回と気軽に学べるよう設定してあります。

問合せ・申込みは、国際協力課まで

電話：045-896-2964 E-MAIL: minsai@k-i-a.or.jp

曜日	火曜日	木曜日		金曜日	土曜日
期間	1月28日 ~3月25日	1月30日 ~3月20日	1月16日 ~3月20日	1月24日 ~3月14日	1月25日 ~3月15日
時間	18:30 ~20:00	14:00 ~15:30	18:30 ~20:00	14:00 ~15:30	14:30 ~16:00
講座	インドネシア語 入門講座	スペイン語 入門講座	ハンガール 入門講座	アラビア語 入門講座	タイ語 入門講座
内容	初めてその言語を学ぶ方を対象				
講師	美野 幸恵 さん	角田 マリ さん	金 順玉 (私スク)さん	斎藤 美津子 さん	中山 玲子 さん
	アジア・アフリカ 語学院講師	ボリビア出身 スペイン語講師	フェリス学院大学 非常勤講師	慶應義塾外国 語学校講師	慶應義塾外国 語学校講師
共通事項	講義回数は全講座8回(1回90分) 教室：あ-α 35c・1階研修室B 定員：15名(最小催行人数7名) 受講料：18,000円(18,900円消費税込み) *テキスト代金別途				

## かながわ国際協力基金

「児童労働削減のためのラジオ放送プロジェクト」などに  
かながわ国際協力基金から、2002年度上半期分として、  
次の2つの事業に対する助成が決まりました。

### インドシナ難民定住者の自立促進に向けた相談活動

団 体：(特活)神奈川県インドシナ難民定住援助協会  
(代表：桜井ひろ子)

区 分：国内協力事業

助成額：776,000円

インドシナ難民定住者に対し、学校、職場、家庭、事故、身分資格等、日常生活で起こるさまざまな問題について、相談に応じるとともに、法律的な問題を解決するために法律相談会を開くプロジェクトです。その際に、必要があれば、関係機関に付き添い、書類手続きや通訳の補助を行います。

今回が3回目の助成となります。

### 児童労働削減のためのラジオ放送プロジェクト

団 体：(特活)草の根援助運動(代表：武中秀允)

区 分：海外協力事業

助成額：2,283,000円

フィリピンの17の州および地域で、教育の機会を奪われて危険な労働に従事している児童労働者とその家族の状況の改善を目的として、現地NGO・PRRM(フィリピン農村再建運動)と共同で啓発とファンドレイジングおよびドナー開拓のためのラジオ放送を行うプロジェクトです。

フィリピンでは現在、1995年以来の経済の悪化により、2,240万人の児童のうち、360万人が児童労働に従事せざるを得ない状況となっています。しかも、その数はグローバル化の影響によってさらに拡大傾向にあります。

このような状況を改善するため、現地NGOと連携・協力をしながら、ラジオ放送を行い、アドボカシー活動、教育啓発、ホットラインによる相談、奨学金プログラムのためのファンドレイジングなどを行います。

国際交流・協力ポスター作文コンテスト

## 入賞作品が決まりました!

9月18日にポスター審査会(応募1,101点)、9月27日に作文審査会(応募279点)を開催し、受賞者が決定しました。

なお、表彰式及び作品展示は、次のとおりです。

表彰式 12月7日(土) 13:30~14:30  
あ-α 35c プラザホール(2階)

展 示 12月7日(土)~15日(日)  
あ-α 35c 企画展示室(3階)

### ポスターコンテスト優秀(敬称略)

北 畑 眞 優 (横浜市立あざみ野第一小学校)  
池 田 海 翔 (平塚市立中原小学校)  
堀 米 咲 帆 (平塚市立松が丘小学校)  
宮 坂 柚 里 (厚木市立妻田小学校)  
平 島 理 子 (平塚市立相模小学校)  
古 川 萌 (平塚市立港小学校)  
山 本 陽\* (平塚市立神明中学校)  
道 古 明 子 (厚木市立玉川中学校)

\*山本陽さんの作品は、(財)日本国際連合協会主催  
ポスターコンテストにおいて優秀賞に選ばれました。

### 作文コンテスト優秀(敬称略)

諏訪部 涼 子 (川崎市立南菅中学校)  
荒 川 仁 美 (平塚市立中原中学校)  
飯 塚 未 佳 (平塚市立中原中学校)  
重 田 幸 乃 (平塚市立中原中学校)  
渡 辺 知 美 (平塚市立金旭中学校)  
朝 野 啓 子 (平塚市立金旭中学校)  
松 浦 香 奈 子 (平塚市立土沢中学校)  
池 田 祥 子 (平塚市立土沢中学校)  
三枝樹 直 子 (平塚市立浜岳中学校)  
シハラツ マニワン (平塚市立大住中学校)

また、今年度より実施の「高校生の主張コンクール」審査会が10月19日に行われました。黒柳愛子さん(県立外語短期大学付属高校1年)が特賞に選ばれ、11月22日に開催される中央大会に出場いたします。

